

病害診断の現場から—ダイズの立枯性病害—

ダイズの立枯性病害では、茎疫病がまず思い浮かびますが、他にも様々な病害が発生しています。実際に診断を行ってきた立枯性病害をまとめてみます。



1. ダイズ白絹病

発病初期には圃場内で黄化株として現れます。このような株の地際部には絹糸のような菌糸が膜状にまとわりついており、のちに黄褐色の粟粒のような菌核を多数形成します。

黄化株は目立ちますから、見つけたら菌核を形成する前に抜き取ってください。



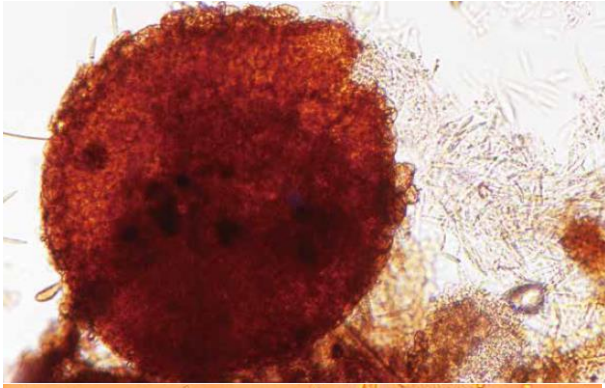
2. ダイズ立枯病

地際部の茎に縦方向に伸びた褐変が生じ、進展すると茎全体が褐色になり亀裂を生じます。亀裂部分には大量の分生子が形成されています。病原菌であるフザリウムの三日月形の大形分生子は分生子座と呼ばれるクッション状になった部位に集中して形成されます。



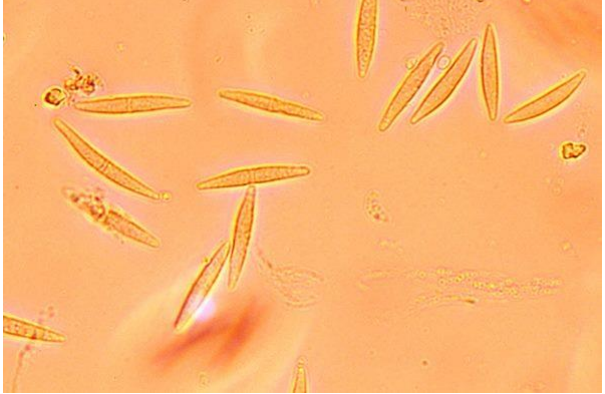
3. ダイズリゾクトニア根腐病

地際に赤褐色～暗褐色の病斑を生じます。健病の境界は明瞭で濃く縁どられており、病斑上には T 字型の分岐部を有するリゾクトニア菌の菌糸がまとわりついています。



4. ダイズ黒根腐病

株は黄化枯死し、赤色球形の子のう殻が地際に多数作られているのが、ルーペや肉眼でも確認できます。子のう胞子は細長い紡錘形で一見、フザリウムの子実体にも似ています。無性胞子の分生子も作られ、円筒形をしています。



ダイズの立枯性病害には、この他にも、萎凋病、株枯病、黒根病、炭腐病などがあります。肉眼的症状では診断が付きにくいことが多いので、判断に困ったときは遠慮なく病害虫防除室まで持ち込んでください。